

第17回
市政会議

婦人の声を市政に反映

アンケートから熱心な討議

婦人の声を市政に反映させていこう。また、市政の動きや市のかかっている問題を学習し、市政への関心を深めていこう。――市連合婦人会（浜田弥芳会長）の「第17回市政会議」が、二月二十一日、市役所大会議室に市内各地の婦人代表約六十人を集めて開かれ、各地区の婦人たちが寄せられた意見、要望をもとに、財政・空港問題などについて小笠原市長らと約四時間にわたる熱心な討議が行われました。



当日は小笠原市長、吉本・国沢両助役ら市執行部をはじめ、橋本（議）議長市議会議員六人、泉の大原空港対策長、市職員組合代表らが出席。

まず、浜田連合婦人会長が「昨年は財政危機から要望は極力おさえた。今年は財政状態がどうなっているかわからないが、一応要望を出してみようというところでアンケートを作成した。よろしくお願ひします。」と開会のあいさつをしたあと、小笠原市長が「私にとって三回目の市政会議。難しい大切な会だ。と重要さを感じている。婦人みなさんに市政に関心を持っていただけることはいいことです。みなさんの要望に必ずような施策はできてなく行政の

▽南園市には一般会計予算に計上されていない「隠し赤字」が巨額に達しているという聞きか、その内容や解消方法を説明してほしい。

▽市長、企画財政課長、「隠し赤字」と表現されているが、これは当然市でまかなうものを開発公社に肩代りさせているものです。市には土地の取得を行っていくことを目的とした「財団法人開発公社」と「南園市土地開発公社」の二つの公社があり、財団法人に六億三千七百万円、土地開発公社に八億八千六百万円、合わせて約十五億円の市の未払い分がある。このなかには処分できる財産も含まれている。

▽市財政の赤字は家庭の台所の赤字といっしょ。一日も早い赤字解消を望んでいるが市職員のベースアップの実現のニュースに財政の行動をうたがいたくなる。

▽管理課長、県内の類似市と比べて南園市の場合は決して高くない。民間企業との比較も高くなく、奉仕者の精神は忘れてはいけないが職員も生活があるのでベースアップを望んでいる。細かいことは職員の自覚を促している。

寄せられた 意見・要望から

▽南園市民のつながりを深める行事を開催してほしい。（大藤）
▽高知空港、長大、高速道路など南園市にもいろいろ進出してきだしたが、いつまでも緑の多い美しい南園市を維持して欲しい。（瓶岩）
▽市民グラウンドを設置してほしい。（日登）

▽文化事業に対する関心度を高めたい。（大藤）
▽青少年の教育に今すぐ力を入れてほしい。（白木倉）

▽週二回ごみ収集が行われて大分きれいになっているが、まだ川を自分たちで自分たちのまわりをきれいにするべきであることはよくわかってはいる。しかしそれができない。広報なんこくで環境問題の記事をもう少し度々のせてほしい。（後免・日登）

▽台所から出るごみで堆肥作りの指導をしてほしい。農家の多い南園市ではごみの収集が少なく、市の財政にもプラスになると思っています。（野田）

▽「田園都市南園」の名にはなじみ深い南園市を市職員の展望をたててもらいたい。（長岡）

きょうの話題・あすの話題

▽十市小学校の校舎は老朽化がひどく危険だ。改築はいつごろになるのか。
▽教育長、パークタウン構想で人口が増えるという見直しになれば計画が立てられるが、現在の状態では改築できない。パークタウンについては県が検討している。現在の敷地のなかでの改築は難しく用地についても検討が必要だ。
▽学校改築の今後の総合的なスケジュールはどうなっているのか。
▽教育長、現時点で計画しているのは、本年度の香南中二期工事と大篠小二期工事。予算措置ができればどうかはこの場ではいえない。この二、三年は予算的にいってほしい。

▽市民図書館の設立をのぞむ。
▽市長、教育長、毎年の要望であり、毎年同じような答えをしている。用地購入や人件費など財政的問題があるが、簡易的なものでもよいので速く将来に実現したい。
▽婦人部の活動のため補助金の増額を望む。
▽企画財政課長、今までの婦人会の実績から来年度は若干増額しているが、まだ川は汚れている。不法投棄のなくなるよ

う指導してほしい。不法投棄防止の看板を立ててほしい。
▽公害環境課長、河川への不法投棄が「頭痛の種」である。いちばん身近な環境問題であるので市民運動的に市民全体で盛り上げてほしい。不法投棄防止の看板は昨年百枚立てた。要望があれば知らせてください。
▽市民課の証明などの窓口事務を交替でもして昼休みにもできるようしてほしい。
▽市民課長、労働時間などの規則にのっとっているのです。返事はできないが、サービス向上のためにも今後内で話し合っけて検討していきたい。

▽市役所内の職員が多すぎると思う。人員整理と質の向上を。
▽管理課長、四十九年から五十二年度までに三十名あまりの方に勧奨退職などで協力願っているが、この間本庁の職員は不補充。現在の職員は、保母、調理師、消防職員を含めて四百八十六人。本庁の事務職員は二百人に足りない。これは職員一人当りの人口比率でみた場合県下九市でも低い方である。
▽市民の公僕ともいえる市の職員とくに窓口事務について部、課長は今一度見直ししてほしい。
▽市長、一人ひとりに注意したことはない。課長の指導に任ずしか

ない。細かいことは職員の自覚を促している。
▽下水道の設置をせよ早急に実施してほしい。上水より下水が先であると思う。（市内南部）
▽建設課長、かなり経費がかかる問題である。ただ雨水処理については、防潮堤の内側に幹線排水路を設置してくれるよう園に働きかけている。
▽毎年一、二月になると自家水道が濁れた話を聞く。原因としては最たるものとして工場の進出、養鰯場、施設園芸の汲み上げなどが考えられる。地下水は無制限ではない。何らかの規制を実施してほしい。
▽水道局長、近年生活水準の向上、経済成長から社会問題となっている。工業用水法、ビル用水法の二つの法律があるが、飲料水、農業用水の汲み上げは規制がない。遠くないうちに規制される見通しです。
▽減反問題は、稲作農家の減収につながり奨励金を充当してもまだ足りない。稲作転換の実施は農業所得増を目標に実施してほしい。
▽産業経済課長補佐、千四百十の来年度の市の減反割り当てに對して、この割り当ては消化できないと、香美郡下の三町村といっしょに県へ意見書を提出した。減反は農民におしつけるものではないが、消化しなければならぬので、できるだけ協力してほしいと呼びかけている。
▽騒音公害に対する対策はどうなっているか。
▽県空港対策長、現在YS対策で民家の防音工事（十戸）や共同利用施設（一カ所）の建設を進めている。来年度には民家防音工事四十戸、共同利用施設一カ所の建設を実施する。
▽拡販については、来年度から用地買収に入り、五十六年度には所定の防音工事などの事業を完了して開港させたい。
▽防音装置をする家、しない家が小さい道一つ隔てたことで分けるようになっていくか。
▽市長、地域の代表者の方にたつてもいい、どのようなメリットを生かすのかを考えると協議会を発足させる。地域の実情をふまえて、不公平がないように中身の深いものにしてほしい。
▽空港拡販については、現在一般市民にはなんの話もないが、拡販された後の公害はどんな対策がされるだろうか。また、どんなに処置されるとしても騒音は絶対に防ぐことはできない。市長さんはじめ、市議の方はどう考えているだろうか。市民を泣かせないように考えてください。

▽市道や農道の舗装、補修整備に力を入れてほしい。（十市・大篠・瓶岩）
▽白木谷の道路は、川に沿って高く危険な場所があるが、ガードレールを取りつけてない所が数カ所ある。県の管轄かと思うが働きかけてほしい。（白木倉）
▽政府の方針として家を建てることを奨励しているが、宅地がなくてみな困っている。稲作は減少せよという以上、少し宅地にできるような法の改正をしてほしい。（稲生）
▽農家の税アップ。勤め人より高収入なのに税金は非常に安い。（三和）
▽防犯や子供の非行をなくすために街灯を増やしてほしい。（稲生）
▽後免町の商店街で舟入川に駐車場を作る話し合いが行われているが、商店街の発展のため駐車場は必要である。市の協力をいただいて早く実現させてほしいと思う。（後免）
▽無駄を無くす運動を、高知県全体、市全体に広げてほしい。一部の運動ではむずかしいと思う。（野田・瓶岩・奈路・白木倉）
▽お返し廃止運動は市の宣言として全市に徹底してほしい。（白木倉）

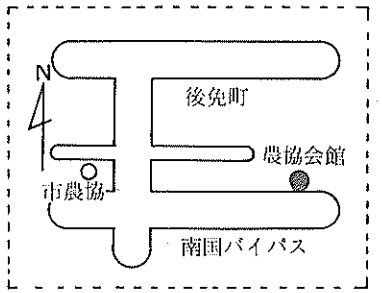


『農協会館』が落成

農業全般に関する総合施設として、南国市農協(島井武義組合長=組合員約7,000人)が昨年6月から大垣の南国バイパス沿いで工事を進めていた『南国市農協会館』が、このほど完成。2月21日、盛大に落成式が行われました。

完成した会館は、1階が農協事務所、営農相談室、農業実習室、電算室、青婦人部室。2階が、会議室、料理教室、生産部会室、和室研修室、図書閲覧室。3階が、大研修室、結婚式場などとなっています。

なお、3月4、5日の両日で引っ越しが行われ、3月6日からオープンしました。

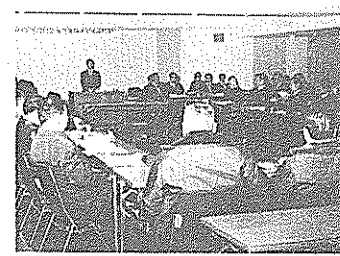


高知 空港 周辺整備対策協議会発足 会長に西内県議を選出

三月一日、市役所で、市長から委嘱された顧問、委員六十人と、県側から野村企画部長、大原空港対策部長、市からは小笠原市長、吉本、国沢両助役らが出席し高知空港周辺整備対策協議会が発足しました。

まず市長から、周辺整備について、市民の利益を擁護するため、県と交渉していく、協議会のご協力を願う、とあいさつ。

続いて野村企画部長から、空港問題は県政の重点課題として取り組んでいます、周辺整備事業の地元負担金を市に持たせない公約を二月九日にした、事業費百二十億円の市負担分約十億円は基金を



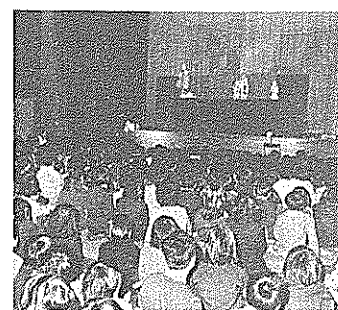
協議会の役員は次の通りです。

このあと、役員を選出、予算を決定して閉会しましたが、席上、委員から、「協議会の性格」などについて質疑がなされました。

千寿会(大垣)らがモデル地区表彰

地域の清掃、保健衛生に積極的に活動されているとして、二月二十四日、「みちびく子供会」六崎、「千寿会」上大垣老人クラ

ブ、「稲生中谷地区」の市内三団体が、市衛生委員連合会(北村武会長)からモデル地区表彰された。



給与七百十万円について、①予算費で計上されているが、きちんとした形で十二月定例市議会に予算提案できなかったのはなぜか。②一部保育所の保育行政のあり方は適当でないのではないか。以上の点について問題があるとして、執行部の反省を求め、考え方を止しました。この問題については、今後市長の諮問機関を発足させ、調査していくことになりました。

臨時市議会

5,300万円を補正 保育所問題に焦点

臨時市議会は、二月十七日開かれ、保育所の臨時職保母の給与、老人医療費、重度身障者医療費などの一般会計補正予算五千三百七十八万円(累計六十三億二千二百五十一万円)の一件を提案し、原案通り可決しました。

また、小笠原市長は一般会計補正予算提案等について、「予算編成のあまさら一般会計補正予算を考へることになり、改心して今後は行政のあり方について考えていきたい」と思っています。

問題は、あつせん人になったのは、単なる国庫の手助けではなく、周辺整備により市の発展を、と考えたからです。今後は地元の人に委員になっていただき、協議会を作って対処していきたいと思えます。同和問題では、「特別措置法」の延長強化について努力してきました。」と所感を述べました。

今回の臨時市議会の焦点は、保育所の臨時職保母の二三月分の給与。これはブライバシーの関係で大きな問題があつて廃止することになっていくらしいが廃止すると社会保険庁系統の職員を五千人増員しなければならぬそうである。我々一行は丁寧なレクチャーと質問のあと市長応接室で簡単なパティイによれば、その後庁舎を見学することになった。まず案内されたのは「黄金の間」である。スエーデンといえばノーベル賞を思いださせるが、この部屋は国王がノーベル賞、受賞者を食事に招く際に使用される所である。壁面は金を主としたモザイクで張りつめられ、正面の壁は東洋風な、佛画的な絵画を浮き出しにモザイクで張りつめられている。ドイツの何人かの職人が何十年か、かかって仕上げたものだといわれ、図柄は繊細な感じではあるが、この部屋ののらいは灯がともされたとき室内全体が金色に輝きいかにも幻想的な感じを出すことに、努力がはらわれているように思われる。隣りは「青い広間」である、壁面は赤褐色の石で床は白い大理石、周囲の石柱は緑色の石である。ここは一度に三千人の客を招待することができる。市議会の議場は狭く、や、暗く、大きなシャンデリアがあり議長席には特に灯りがつくようになっている。教会堂風な古典的なふんい気を百年変らず伝えてきていることを人々の胸にしみじみと感じさせるような気がする。

欧州行政視察を終えて ⑦

市長 小笠原 喜郎

続・ストックホルム 十月十二日午前十時、ストックホルム市役所を訪問する。我々を出迎えてくれた、シティホールマネジャー、局長、市長、皆さんをそろって、実に礼儀正しく、いんぎん丁寧である。当市は、一八六二年に強力な自治権を獲得して発足した輝かしい歴史を持つ。今では百年余りの伝統を持っているわけだが、更におどろいたことは百年間、法規も、行政の内容もほとんど変革していないといわれていることである。市議員の数も百年間、百人を定数として守つてきている。今は保守が五十二名革新が四十九名で、うち婦人議員が三十四名いる。外国人居住者でも、スエーデンに三年同居住し

ておれば国籍を持つていなくても地方議員に限り被選挙権ができる。十八歳になれば投票権がある。投票権がある。市議会は七月、八月を除いて毎月二回定例会を開く。月曜日夕方六時開会するのが長年の習慣になっていたが、昨今は案件が多くなつたので午後一時から開くようになった。議員の拘束時間が非常に長いことがわかる。議事案件では学校関係、福祉関係が圧倒的に多いのはいかにもこの国の議会らしい。市長は議長が兼ねており、一種の名譽職であるらしい。市の行政が議会の強い監督のもとにおかれていることの方に重きをおいているべきであろうか。歴史的には市長が地方裁判官を兼ねていた時代

もある。またスエーデンには二四県があり、知事は国が任命する制度になっている。(ストックホルム市はストックホルム県にある) 園と地方自治体との微妙な関係にあることがわかる。市の局長は市議会によって選ばれる。各部署のうちでも社会福祉局が最大多数の職員を擁しているのもさすがにこの国らしい。全職員二万人の中、約一万人を占めている。スエーデンでは、国の予算の三十割が社会保障関係費で、十六才未満の児童には児童手当がつき、所得制限はない。児童遊園地は市内に百五十六カ所ある。一方老老年金者は地下鉄やバスは半額でタクシーを利用する場合は補助もある。希望すれば学校給食をとることもできる。この場合特にコピーがつく。人口は日本の約三分の一ではあるが、すべての国民がコンピューターに登録されている。

これに対し、市長から「空港拡張問題とは全然別問題だが関係はある。協議会で決定したものは十分反映してゆく」などと答えました。協議会の役員は次の通りです。 会長 西内四郎(県議・久枝) 副会長 松本二(市議・三和) 浜田一雄(同・前選) 道路部会長 橋田信夫(同・大藤) 河川部会長 島内正雄(同・物部) 環境部会長 有沢実(同・田村) 常任委員長 橋本直治(同・久枝) 監事 藤宗俊雄(田村) 溝淵勇(大藤)